

基本目標Ⅱ 「豊かな心を育む」ために

〔現状と課題〕

子どもにとって、日常生活の基盤である家庭での食事は、生涯にわたる健全な心身や豊かな人間性を育む重要な意味を持ち、家族が食卓を囲んで共に食事を取りながらコミュニケーションを図ることは食育の原点です。家族と一緒に食事を共有することを「共食」として、国の第2次食育推進基本計画では重点課題に位置づけられています。

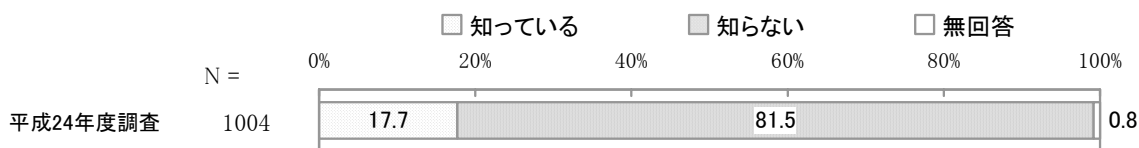
三島市では、共食を推進するため、食育の日に当たる毎月19日を「三島市民家族団らんの日」とし、家族や友人等で楽しく食卓を囲むきっかけづくりに努めてきました。しかし、「三島市の食育推進に関する調査」では、「三島市民家族団らんの日」の認知度は低く、実際に家族そろって食事を食べる人は、夕食で約5割に留まっています。

このため、今後も学校等を通じた家庭への啓発や企業との連携により「三島市民家族団らんの日」を普及させるとともに、団らんの中で食事のマナーやあいさつをする習慣を定着させる働きかけが必要です。

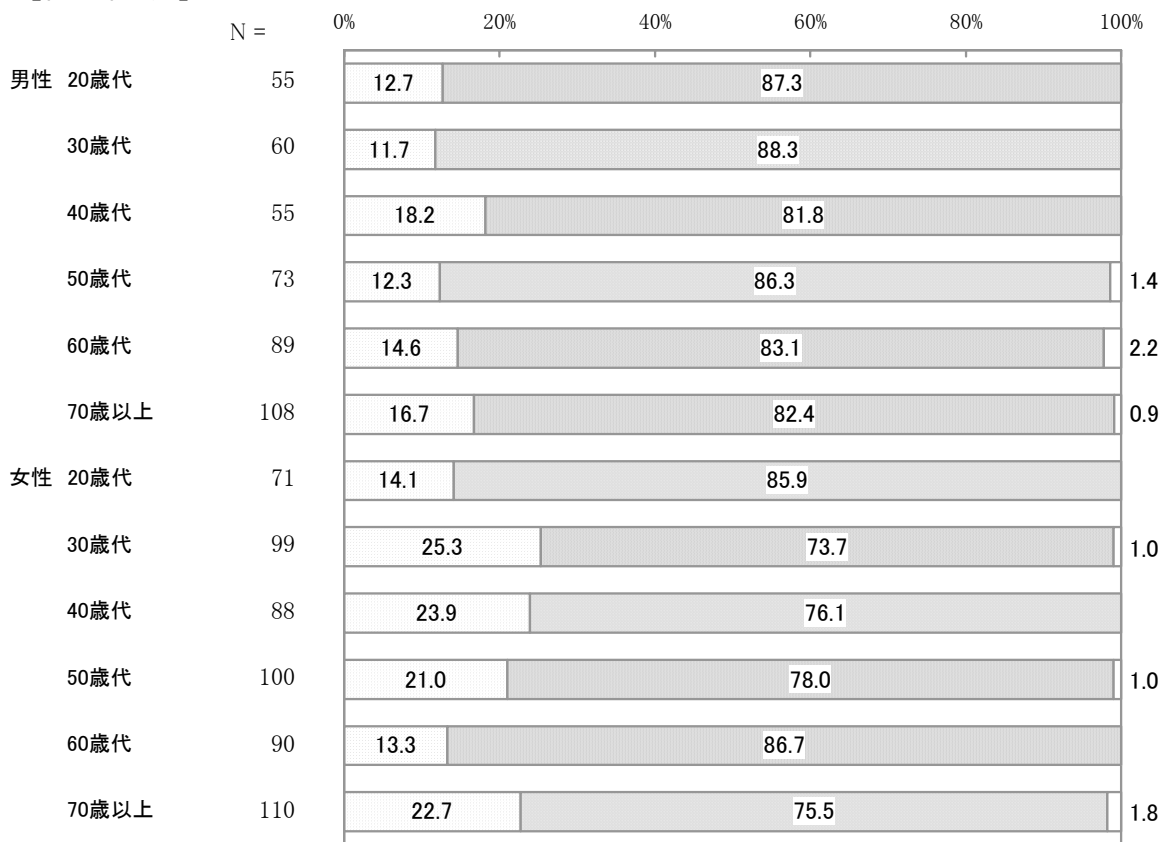
また、食育は考え方を学ぶだけでなく、日々の調理や食事と深く結びついており、体験することが重要になります。農業体験や調理体験を通じて、私たちの食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食事をいただくまでに生産者をはじめ多くの人々の苦勞や努力に支えられていることを理解することは、食への感謝の気持ちを育むことにつながります。

本市では、*食農体験学習を実施し、食への関心が高くなってきていますが、今後もこうした活動を継続していくことが必要です。調理体験として実施している各種料理教室等は市民が関心を持つことができるよう開催内容を工夫し、実施してきました。今後は参加者が固定化しないよう、幅広い市民の参加促進を図り、市民一人ひとりの食育実践につなげる必要があります。

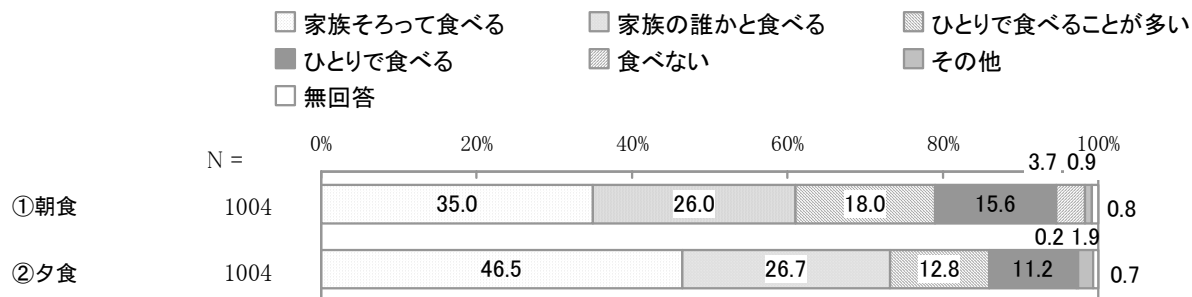
「三島市民家族団らんの日」の認知度



【性・年代別】



家族との食事の状況

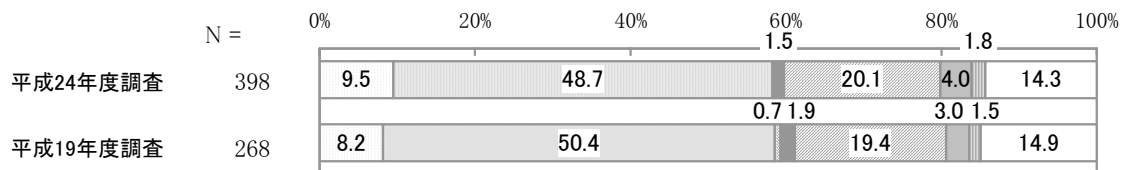


資料：三島市の食育推進に関する調査

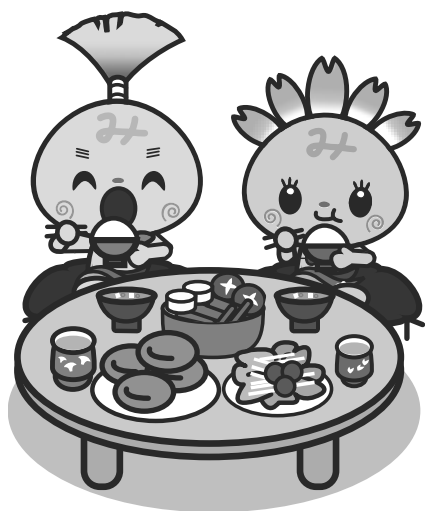


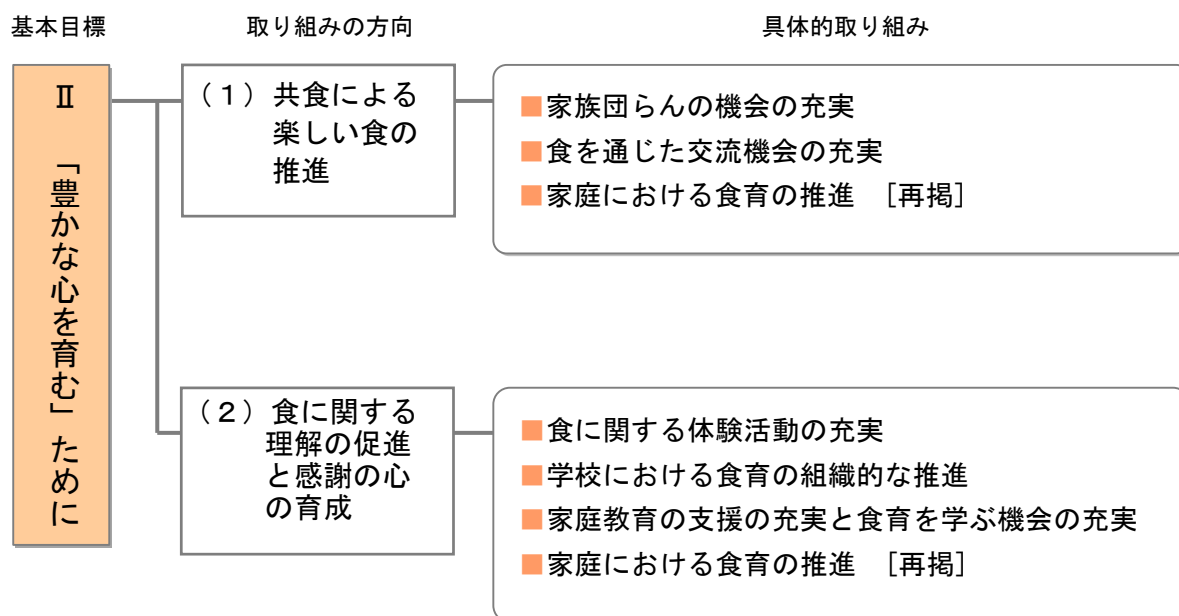
ひとりで食べる理由

- 自分が忙しいから
- 家族との時間があわないから
- 家族で食べる習慣がないから
- ひとりで食べたいから
- ひとり暮らしだから
- その他
- 特にない
- 無回答



資料：三島市の食育推進に関する調査





【取り組みの方向】

(1) 共食による楽しい食の推進

家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図り、家族の絆を深める共食は、食育の原点であるので、共食の機会の普及・啓発を図ります。また、家族や友人と食を楽しむことで、食生活を見直す機会とします。

【具体的取り組み】

市民の役割

- ・ 普段から共食に心掛け、家族団らんの日には家族や友人と楽しく食事をします。
- ・ 食に関する地域の行事やイベントに積極的に参加します。
- ・ 周りの人を誘って料理体験や農業体験などのイベントに参加します。



行政・地域の役割

家族団らんの機会の充実

家族団らんの機会の創出に向け、広く市民へ「三島市民家族団らんの日」の普及・啓発を図ります。また、「ノー残業デー」の創設や「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現への取り組みなど、各事業所が長年にわたり培ってきたノウハウを生かし、「わが社の家族団らんの日」行動宣言の実施を推進します。

● 主な事業

- ・三島市民家族団らんの日の啓発（再掲）
- ・わが社の家族団らんの日の啓発

食を通じた交流機会の充実

共同で料理をつくる楽しさや絆の大切さを実感するため、親子や地域、世代間において食を通じた交流機会を提供します。

また、地域で開催される行事・イベント等において食をテーマに取り上げ、食を通じた地域交流の機会を増やし、家族や仲間及び地域の絆づくりを推進します。

● 主な事業

- ・親子料理教室・おやつづくり教室（再掲）
- ・男性向け料理教室（再掲）
- ・地域行事・イベントにおける食を通じた交流機会の充実

家庭における食育の推進 [再掲]

家庭は、食育実践の場として重要な役割を担っています。このため、食事を通しての親子のふれあいや生活リズムの向上、快食・快便など望ましい食生活を確立できるよう、健康づくりや子育て支援、生涯学習の側面から各種相談や親子で参加できる講座等を通じて家庭での食育に関する取り組みを支援します。

● 主な事業

- 三島市民家族団らんの日の啓発（再掲）
- 離乳食講習会（再掲）
- 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、2歳児健康相談会、乳幼児相談会（再掲）
- 子育て支援施設等における研修会等（再掲）
- 親子料理教室・おやつづくり教室（再掲）
- 幼児期の家庭教育セミナー、「みんなで子育て」推進事業（再掲）
- スマイル子育て講座（再掲）
- みしま教養セミナー、食育関連講座（再掲）
- 家庭における食育の内容や献立の情報提供（再掲）



【取り組みの方向】

(2) 食に関する理解の促進と感謝の心の育成

様々な農業体験や調理体験の機会を提供するとともに、周知活動を積極的に行い、市民の食に関する理解と感謝の念が深まる取り組みを推進します。

【具体的取り組み】

市民の役割

- 食農イベントに参加したり、家庭菜園などで農業体験の機会を持ちます。
- 食事のマナーなど、家庭でのしつけを行います。
- 箸の正しい持ち方を身に付けます。
- 「いただきます」、「ごちそうさま」、「ありがとう」の感謝の気持ちを表します。
- 「生きること」＝「食べること」であり、命のリレーであることを認識し、子どもに伝えます。

行政・地域の役割

食に関する体験活動の充実

自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めること等を目的として、食の生産に関する一連の体験機会や生産者との交流機会等を提供します。

また、幼稚園・保育園や小中学校において野菜を食材にした食農体験や作物栽培、調理実習など体験活動を充実します。

● 主な事業

- 食農体験学習
- 子どもたちと学校給食納入農家との交流
- 体験活動（作物栽培、調理実習等）

学校における食育の組織的な推進

幼稚園、小中学校において、食育をテーマに年間活動計画を策定し、教育活動全般において体系的に食育活動を行います。

また、各学校（幼稚園）に食育担当教員を分掌として位置づけ、各学校において推進します。

● 主な事業

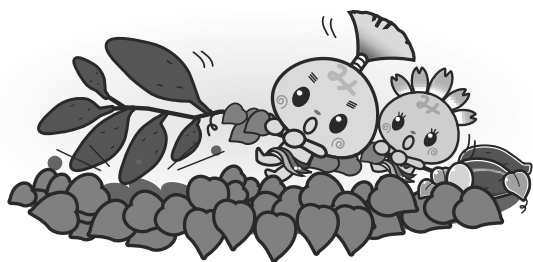
- 食育年間活動計画の策定（再掲）

家庭教育の支援の充実と食育を学ぶ 機会の充実

家庭教育学級等を通じて食に関する講話や調理体験の機会を提供し、家族団らんで楽しく食事をする事の大切さや規則正しい食事、食事時のしつけ・作法・箸の使い方などを伝える家庭教育を支援します。

● 主な事業

- 幼児期の家庭教育セミナー、「みんなで子育て」推進事業（再掲）
- 家庭教育学級
- 家庭における食育の内容や献立の情報提供（再掲）
- 食育教室（再掲）



家庭における食育の推進 [再掲]

家庭は、食育実践の場として重要な役割を担っています。このため、食事を通しての親子のふれあいや生活リズムの向上、快食・快便など望ましい食生活を確立できるよう、健康づくりや子育て支援、生涯学習の側面から各種相談や親子で参加できる講座等を通じて家庭での食育に関する取り組みを支援します。

● 主な事業

- 三島市民家族団らんの日の啓発（再掲）
- 離乳食講習会（再掲）
- 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、2歳児健康相談会、乳幼児相談会（再掲）
- 子育て支援施設等における研修会等（再掲）
- 親子料理教室・おやつづくり教室（再掲）
- 幼児期の家庭教育セミナー、「みんなで子育て」推進事業（再掲）
- スマイル子育て講座（再掲）
- みしま教養セミナー、食育関連講座（再掲）
- 家庭における食育の内容や献立の情報提供（再掲）

